

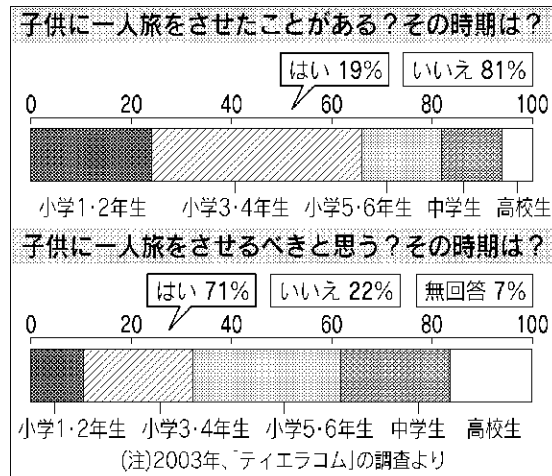
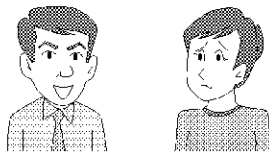
夏休み中の小学四年生の長男が「新幹線に乗って福岡のおじいさん、おばあさんの家に一人で行ってみたい」と言い出した。夫は「かわい子には旅をさせろと言っただろ」と賛成するけど、近頃は物騒な世の中。東京から福岡まで一人で行かせて大丈夫かしら。

妻「子ども一人ではまだ心配だわ」  
夫「そんな」と言ったら「何もせられなさいわ」

教育サービス会社「ティエラコム」(神戸市)が二〇〇三年に実施したインターネット調査(回答者二百四十二人)では、子どもの一人旅について「経験させたほうがいい」という回答は七二%。これに対し、「実際にさせたことがある」は一九%。かわいい子に旅をさせたいが、現実には躊躇(ちゅうちよ)する親の姿が浮かぶ。

「一人旅させるならいつごろから?」という質問には、小学校の高学年からという回答が最も多く、中学生からという意見が続いた。  
JR東京駅から博多駅まで乗り換えなしの新幹線「のぞみ」で行った場合、所要時間

## 小4の息子が「一人旅したい」



## 事故起きないか心配 成功すれば自信つく

「子どもたちの感想でも「分らないことがあったら人に聞けるようになった」という声が目立つという。同所長は「一人旅をすれば子どもはいつもと違って自分のアンテナを懸命に伸ばす。自立心が芽生え、成長するのを実感できるでしょう」と話す。

子どもたちの成長にプラスになることは分かったわ。一人旅の準備で犯罪の危険などを親子で話し合うことも日ごろの防犯意識の役に立ちそう。だけれど、それでもやっぱり心配だわ。息子には内証で後ろからこっそり付いて行くのかしら。

夫「やり遂げたら息子も大きな自信を持つと思う」  
妻「冒険心をくくむのは別の方法でもできるわ」

神奈川県大和市の男性会社員(47)は三年前、小学五年生の長男を北九州市の祖父の家まで一人旅させた。一家で新幹線を使って帰省したことは何度かあったが、妻(38)は反対。新幹線のJR小倉駅まで祖父母に迎えに来てもらうことで折り合った。

と忠告する。  
夫「親子で念入りに準備すれば大丈夫だよ」  
妻「想定外のハプニングが起きたらどうするの?」

出発までにどんな準備が必要か。子供だけのグループ旅行を企画した経験のある近江希望が丘ユースホテル(滋賀県)の岡野知己所長は「まずは子ども自身に時刻表などを参考に旅の行程表を作らせてみる」とアドバイスす

例えば、トイレに大きな荷物を持って行かなくてもいいように貴重品を身につけるウエストバックを持つ。隣の人から食べ物を勧められても、「ありがとうございます。でもいまだき物はしないと両親と約束しているので遠慮します」と丁寧な断る。など。想定外のハプニングが起きたらどうするか。横矢所長は「困ったら車掌さんに相談しなさい」ではダメ。目的など必要なことをきちんと伝えられるよう練習させておいたほうがいい。と指摘。防犯ブザーを持たせて実際に使わせてみるなど用心の上にも用心が必要という。

と心配する。

子どもの成長には個人差があり、積極的だったり引込み思案だったり性格も様々。同所長は「過保護と言われるかもしれないが、小学生の間は大人と一緒にほうがいいのでは」と話す。

子どもの一人旅と分かれれば所持金を狙う犯罪者もいる。同所長は「どうしても一人旅を経験させるといふなら最悪のケースを想定して万全の準備をすること。子どもの言うままに送り出すのは無責任」

時間に余裕のある計画を立てさせ、新幹線から在来線に乗り換えるなら、電車を複数調べさせる。親はそれをしっかりチェックする。  
電車内での注意事項を確認しておくことも必要。「トイレに立つ時、荷物はどうするのか」「知らない人から声を掛けられたら」「おなか痛くなったら」。いろいろ場面を想定し、親子であらかじめ対処方法を考えておくことが重要だ。